

秀島敏行 後援会だより

信無くんば立たず



後援会会長
貞森比呂志

社会・地域・世の中は、人と人の結び付き・支え合い。絆で成り立っています。その人間関係の基本・土台が「信」です。信とは、まこと・まごころのことです。信用・信頼・信義がそれです。

反対に、うそをつく・だます・ごまかす・約束を破るなど信を裏切るのを背信と言います。昨今、わが国では背信に当る多くの出来事が続きました。その最たるものの一つが、原発に関わる幾つかの背信行為でした。やらせメールなどがそうです。

二千数百年前、中国の代表的倫理思想「儒教」の祖、孔子が「信無くんば立たず」と教えています。信が無ければ社会は成り立たぬとの意味です。

地域づくりの主体となる行政も根本は信であることは言うまでもありません。衆知を集めながらもその根底に信をしっかりと据えてこそ自治は花を咲かせ実をつけます。

佐賀市の秀島市政が、信を心の糧として常に忘れず、前進・発展することを強く願ひ、大いに期待しています。

「朝ラジ、まなざし、朝ごはん」



佐賀市長
秀島敏行

この夏、佐賀市では「朝ラジ、まなざし、朝ごはん」を合言葉に、地域でのラジオ体操の輪を広げ、大人たちの参加を呼びかけて市民の皆さんの健康づくりと子どもたちへのまなざし運動につなげる活動が展開されました。夏休みの間、それぞれの地域の神社やお寺、空地、公園で元気な子供達の姿が見られました。

私はいつものように、本庄神社のラジオ体操に参加しました。子どもが40人、大人が30人ほど毎日参加し、6年生の男子と女子が交代で前に出て参加者に向き合っ

てラジオ体操をします。照れ隠しに、デレデレと体操をすると、お年寄りから「シャキッとせんかい」と言う声飛びますので、6年生は気を引き締めて体操をしていました。

今、団塊の世代が第一線を退きつつありますが、多くの人たちが仕事に追われて地域とのかかわりがほとんどないまま地域に戻ってきています。高齢化社会と言われて久しいですが、こうした人々が地域の主要な構成員となりつつあり、地域での活動の場を作ることがとても重要なこととなっています。

「朝ラジ、まなざし、朝ごはん」あんがいで地域の大人にも元気を届けているようです。



佐賀市の大震災避難者支援

3月11日の東日本大震災とそれに続く福島原発事故は、我が国にとって戦後最大の危機と言えるものです。被災地の人たちの中には全国各地に避難している人も多く、佐賀市でもいち早く受入れ体制を整えました。

いま、私達の身近にそうした人たちが頑張っている様子が伝わってきます。この未曾有の苦難の時を乗り越えるために、手を携えていきたいものです。

バルーン係留

7月10日

佐賀市福祉ボランティア協会主催の支援イベント「いやし!たのし!さがし!」が開催されました。避難者の皆さんに佐賀のバルーンを楽しんでもらおうと佐賀のバルーン2機がボランティア参加しました。

朝早いうちから親子連れの皆さんに来てもらいましたが、ほとんど皆さんがバルーンを見るのも初めてのことでとても楽しんでもらいました。子どもたちの笑顔がとても印象的でした。

わざわざ佐賀に避難してくる人は佐賀に親戚、友人、親しい人がいる人たちばかりかと思っておりましたが、実際は、佐賀に縁もゆかりもない人たちがたくさん避難して来ていました。

市民グラウンドにて



8月7日

全国で夏休みを利用して被災者の家族を招待する活動が展開されました。たくさんのボランティアが参加されています。

佐賀でも福島、宮城から4家族10名がおいでになりました。4日間でしたが3月の震災と原発事故から毎日不安を抱えながら生活をされてきた方々です。

短い間でしたが余震も放射能もない佐賀で過ごせることをとても喜んでいただけたようです。ホストファミリーなどお世話いただいた佐賀の人たちの優しさにもとても感動されたそうです。

7日の朝はどんどんどんの森でバルーンの搭乗してもらいました。皆さん実際に見るのも初めてということで、気球の巨大さやバーナーの音にびっくりされたり、空からの眺めに歓声を上げたりして喜んでいただきました。



初めての気球に笑顔

東日本大震災、復興はまだまだ先です。
でもきっと被災地は元気になります。
そのため、わたしたちはこれからもじっくりそれぞれの
立場で支援していきましょう。

がんばろう 日本

(坂井猛郎)

避難生活のいま

夏休みのある日、避難生活を続けている若い2人のお母さんに、後援会員牟田洋子さんのお宅で佐賀での生活についてお聞きしました。

Q. どうして佐賀に来ましたか？

佐々木さん 放射能から子どもを守りたかった。佐賀は母の故郷。

寺本さん 母の友人の里が佐賀。関西でもまだ放射能心配なので九州へ来た。

Q. いつ佐賀に来ましたか？

佐々木さん 3月12日

寺本さん 3月17日

Q. 誰と避難していますか？

佐々木さん 生後11ヵ月の子ども

寺本さん 5年生、2年生、4才、1才の子ども

Q. どこに住んでいますか？

佐々木さん はじめ叔母の家でのち雇用促進住宅

寺本さん 最初5日間知人宅(牟田宅)、その後レオパレスに2ヵ月半、そのあとは雇用促進住宅。情報を聞いた友人が市役所に相談に行くよう勧めてくれた。当初は罹災証明なしで入居できたが、現在は市営、県営住宅含めて罹災証明が必要です。



親子でがんばっています

Q. 佐賀の暮らしはいかがですか？

佐々木さん 車がないと不自由。市営バスの乗り放題のバス券を利用している。

寺本さん 被災地から車を持ってきた。

2人の共通認識として、子育てにはいいところ。お医者さんが多いと思うが、どこのお医者さんがいいかがわからない。特に歯科医院選びに苦労した。小学校や幼稚園でも良くしていただいている。小さい子どもに関する情報はお母さん達を通じて得るものが多く、助かっている。

市役所の対応が良い。花火、バルーン、バスツアーなどイベントの案内やタクシーの補助制度もある。保健師さんが自宅を訪ねて来てくれる。

Q. 子どもたちの様子はどうですか？

小学校、幼稚園それぞれ元気に通っている。給食では味付けの違いや量の多さに戸惑うこともある。成績の順位をクラスで発表されてるようだが、学校によつての違いを感じる。

一般的に、子どもたちは多くの体験をしてたくましくなったように思う。

Q. 今後のことをどう考えてますか？

先が決められない、そして見えない辛さがある。今は日々安全に暮らしていることがすべて。今、何かを叶えてあげると言われたら、「放射能漏れを止めて欲しい。」

インタビューを終えて

佐賀市や県のしっかりしたサポートがあるが、当然ながら生活が安定した穏やかなものとはなっていないように見受けられた。お二人ともご主人は仕事の都合で自宅に残っておられる。5年生の男の子を持つ寺本さんは、今からが父親との繋がりが大切な時であることを心配されていた。「来年の夏には〇〇しようね!」と子どもたちに話せないことの辛さは大きいと感じました。

(岩尾幸代)

投稿コーナー

「自治会長になって」

本庄町区の単位自治会長になって約半年、回覧板の配布、ゴミステーションの管理、川掃除、花壇作り、敬老会の開催、ラジオ体操、遊具の管理等々をこなしながら、基本的なところで思うことがある。

4月には、沢山の任意団体の役員、委員に位置づけられる。役員等は責任と権限が明確である筈だと思うが、この「あて職」的役員等にはそれが求められていないようだ。これらの組織は慣例的に動いているようである。

又、単位自治会長の立場からは、行政団体としての佐賀市、公民館、各種任意団体との関係が見えにくい。自治会からは負担金などが、市からは委託金や補助金などが地域の各組織間を流れているようだが、責任や権限との関係性が私にはまだ見えていない。

例えば、外国の模倣ではあるが、PDCA (Plan Do Check Action) 手法でも活用して一斉点検などする時期かな?と思う。
(本庄校区 I)



<http://www.hideshima-office.jp/oyaji.html>



<http://www.hideshima-office.jp/tuma.html>

「おやじのひとり言」
「妻のぼやき」

秀島市長夫妻のコラムです。2006年2月から毎週更新しています。その時々のでき事や、季節、自然など率直で心温まる文章がつづられています。夫妻の人物がにじみ出ています。一度ご覧ください。

■ 後援会事務所へお出かけください。

- ◆ 秀島敏行後援会事務所は、月曜日～金曜日の13:00～17:30開けております。祝日は休み。
- ◆ 第1・第3月曜に月2回の事務局会議を行っています。皆様の疑問・質問をお寄せ下さい。お応えいたします。
- ◆ 駐車場はあります。
- ◆ ひでしま敏行ホームページ

<http://www.hideshima-office.jp/>
メール info@hideshima-office.jp



- ◆ 所在地 / 〒840-0042
佐賀市赤松町11番35号 ハイッゲン201号
(TEL) 0952-28-7177 (FAX) 0952-29-8618



※ 後援会は皆様の会費や寄付で運営しています。納付については事務所までお問い合わせ下さい。